

小泉八雲記念館 2013年度企画展(前期)

ヘルムンさんと タヨウ星人

2013年4月6日(土)―9月30日(月)

小泉八雲記念館 企画展示室他

[入館料]

大人300円 小人(小・中学生)150円 外国の方150円(小人80円)

●5月5日(日)こどもの日 小・中学生は無料 ●毎週土・日曜日 松江市内に通学する小学生は無料

[主催]

NPO法人松江ツーリズム研究会、松江市

[共催]

兵庫県立人と自然の博物館

[協力]

一畑百貨店、島根県立美術館、島根県立図書館、松江市立中央図書館

[後援]

松江市教育委員会、山陰中央新報社

小泉八雲記念館
Lafcadio Hearn Memorial Museum

〒690-0872 島根県松江市奥谷町322 PHONE: 0852-21-2147 FAX: 0852-21-2156
322 Okudani-cho, Matsue, Shimane 690-0872, Japan PHONE: +81 852212147 FAX: +81 852212156
<http://www.matsue-tourism.or.jp/yakumo/>

近年の地球環境保全への関心が急に高まる中で、その共通のキーワードとして使われている言葉に「生物多様性(Biodiversity)」というのがあります。概念としての「生物多様性」は非常に理解しづらいですが、キーワードとすれば「遺伝子的多様性」、「種の多様性」、「生態系多様性」などがあります。多様な生物が息づくこの地球上で、環境破壊によりそれらが失われつつあることは、「生物多様性の危機」すなわち「人類保存の危機」であることに、私たちは気付かなければならないのです。

生物多様性は、自然生態系がバランスを維持するために必要不可欠であり、持続可能な発展のためにも配慮は欠かせません。人間は人間だけでは絶対に生きていけないのです。

小泉八雲は、生涯を通じて自然を愛する人であり、「人間と自然の共生」の大切さを彼の作品を通して書き続けた人です^[1]。八雲は昆虫少年と呼べるような根っからのナチュラルリストというわけではありませんでしたが、虫にとっても関心を示し、晩年は草ひばり・松虫・鈴虫などを雅趣に富んだ竹細工の虫かごに入れて生態を観察し、同時にその音色を楽しみながら執筆しました。西洋人が虫の音に対しノイズ(雑音)としか感じなかったことに違和感を覚えた八雲は、日本人がその虫を芸術の対象とし、その声に喜びを覚えることに大いに共感しました。また、1894年に「自然との共生」と「シンプルライフの維持」が未来の日本に必要なだと講演「極東の将来」で説いていますが、そのようなライフスタイルこそ、生物多様性と強く響きあう考え方だといえるでしょう。

企画展「ヘルンさんとタヨウ星人」では、展覧会やワークショップを通して、この生物多様性を維持し育むことの大切さや、自然の尊厳や生き物の不思議さ、おもしろさを子どもたちに伝えていくことを目的とし実践していきたいと考えています。子どもたちにとって生物多様性を考えることは難しいことですが、「地球にはいろんな生き物がたくさんいて、それぞれちがう姿を取っていても、みんなひとつの命を生きているということ」をテーマに楽しく学んでいくことができる場を提供していきたいと思えます。

ヒトも自然の一部で、生き物に優劣はなく「みんなちがって、みんなすごい！」を発信する「タヨウ星人」は謎の講談師で絵師の、か なんどうちんげんさい河南堂珍元斎(本名 川東丈純)さん^[2]によって生み出されたキャラクターです。「タヨウ星人」^[3]は、2010年度の兵庫県立人と自然の博物館の企画展「ひとはく生物多様性大作戦！」で誕生したキャラクターで、2011年3月～5月には「ひとはく生物多様性大作戦ファイナル！タヨウ星人原画展」を開催するなど生物多様性の大切さを伝えるメッセージを子どもたちに送っています。その後国内6か所を巡回し、その地に現れるオリジナルタヨウ星人をたくさん生み出してきました。また、数々のユニークな方法でワークショップを開催し、子どもたちと一緒にタヨウ星人を作画し、多くの参加者と動員数を記録しています。

松江展においては、川東氏によるタヨウ星人の原画約30点を中心に絵本絵数点、タヨウ星人マンダラなどユニークで心温まる作品を展示します。また、小泉八雲(ヘルンさん)の作品世界とコラボレーションし、ヘルンさんの感じた松江の豊かな生物多様性を表現した、松江版オリジナルタヨウ星人の原画や絵本絵、3コマ漫画なども併せて展示予定。また、八雲の「虫」についての作品を楽しく解説するコーナーも作って、ヘルンさんを通して、自然を身近に感じてほしいと願っています。

小泉八雲記念館の展覧会をキーステーションに、子供たちを自然の中に連れ出し、自分のタヨウ星人を感じたり作ったりするワークショップを、島根県立美術館・一畑百貨店の協力を得て開催します(講師:か なんどうちんげんさい河南堂珍元斎氏、鈴木武氏<人と自然の博物館研究員>、大谷剛氏<同博物館主任研究員>ほかを予定)。

例えば、自然と生き物のお話を聞いたり体験したりした後、1)自分の感じたタヨウ星人を描く、2)ヘルンさんについてのお話を聞いたり好きだった虫の音を聞き分けたりして、ヘルンさんの多様性観を感じる、3)タヨウ星人巨大紙芝居絵巻と立版たてほんこ古めりえ、など魅力ある内容で、多くの子供たちの参加を期待しています。なお、上記ワークショップは、平成25年度夏期に開催予定の「第10回子ども塾——スーパーヘルンさん講座」と連動して実施する予定でもあります。

注

[1]……ハーンが虫に言及した作品は、タイトルだけ見ても「蝶の幻想」(「シンシナティ・コマーシャル紙」)、「虫の音楽家」(「異国情緒と回顧」)、「蚕」(「霊の日本」)、「蝉」(「影」)、「蠅の話」(「螢」)、「草雲雀」(「骨董」)、「蝶」「蚊」「蟻」(「怪談」)、さらに東大の講義では「虫とギリシャの詩」「虫の詩」など、相当の数のにのぼる。また、ファーブルの『昆虫記』をはじめ、何冊かの生物学や昆虫学の専門書ももっていた。昆虫から人間を学び、人間と自然との共生の必要性をいっそう実感していったものと思われる。

[2] 謎の講談師・絵師 かなんどうちんげんさい 河南堂珍元齋 / 兵庫県立人と自然の博物館地域研究員 かわひがしたけずみ 川東文純……1964年兵庫県明石市生まれ。各地のミュージアムなどで展示や話芸、お絵描き芸を使った独自のスタイルで人と自然、日本文化を伝えることをライフワークとしている。日本初のインターネット文学館「ネットミュージアム兵庫文学館」を立ち上げ、展示企画や運営を5年間担当、人と自然の博物館で特別展「フェアブル大作戦！」や企画展「ぎっちゃん君参上！」を担当し珍元齋としての活動を確立。現在はボランティアで人と自然の博物館地域研究員としてタヨウ星人原画展やゾウの描いた絵展等で生物多様性を伝える展示や演説を行っている。県内では豊岡市コウノトリ文化館や福崎町柳田國男記念館、南あわじ市玉青館、多可町ベルディーホール、神戸元町モトコー、西宮神社等、県外では松江市「スーパーヘルンさん講座」、徳島県立近代美術館・博物館、今治タオル美術館などで公演展示。他にも自由

の森大学神戸担当、お絵かき教室「お絵かきの森」講師、似顔絵屋珍元齋等幅広く活動。講談は四代目旭堂南陵、絵画は洋画家の故増田正三郎に師事。塩屋芸術文化協会所属。

[3] タヨウ星人……国際生物多様性年である2010年、兵庫県立人と自然の博物館(ひとはく)の生物多様性大作戦！において誕生した生物多様性を体現するキャラクターで、タヨウ星から生物多様性の大切さを伝えるためにやってきたイカジイやライオンタンポポなど奇妙な生きものたちのこと。

参考サイト

●タヨウ星人の説明はこちら

<http://www.hitohaku.jp/biodiv/creatures.html>

●ワークショップの様子ははこちら

http://hitohaku.jp/blog/2012/08/post_1608/

http://hitohaku.jp/blog/2012/09/post_1617/

http://hitohaku.jp/blog/2011/09/post_1337/

http://hitohaku.jp/blog/2012/08/post_1610/

http://hitohaku.jp/blog/2012/03/post_1491/

企画書作成——小泉祥子(小泉八雲記念館企画展コーディネーター)

解説———小泉凡(小泉八雲記念館顧問・島根県立大学短期大学部教授)
川東文純(兵庫県立人と自然の博物館地域研究員)

関連イベント

ちんげんさいのタヨウ星人わーるど

タヨウ星人アートであーそーぼっ。

2013年8月開催予定

[会場] 島根県立美術館 アートスタジオ(島根県松江市袖師町1-5)

[対象] 幼稚園～小学生(小学校低学年までのお子様は保護者同伴でお願いします)

[募集人数] 30名(保護者も含む)

[参加費] 無料

[申込み・お問い合わせ先] NPO法人松江ツーリズム研究会 事務局 電話：0852-20-7515

ちんげんさいのタヨウ星人な時間

たてほんこ 立版古大作戦!!

2013年9月開催予定

[会場] 一畑百貨店 だんだんサロン(松江店4F/島根県

松江市朝日町661)

[対象] 幼稚園～小学生(小学校低学年までのお子様は保護者同伴でお願いします)

[募集人数] 20名(保護者も含む)

[参加費] 無料

[申込み・お問い合わせ先] NPO法人松江ツーリズム研究会 事務局 電話：0852-20-7515

第10回子ども塾

スーパーへるんさん講座

詳細未定

2013年夏休み中に開催予定

[対象] 小学4年生～中学生

[お問い合わせ先] 松江市観光文化課文化係 電話：0852-55-5293

タヨウ星人たち松江に現れる!

多様性といえばどんなことを思い描きますか？

ちょっと文字を入れ替えたタヨウ星人たちが松江にやってきました。1890年に松江にやってきたヘルン(ラフカディオ・ハーン)さんより120余年遅れています。40億年の生き物の歴史からみるとほんの一刻の遅れです。

多様性という言葉は多様に使われます。2010年、名古屋でCOP10(本名は第10回生物多様性条約加盟国会議といういかめしい名前です)というイベントが催されました。「生物多様性」という言葉が飛び交いました。多様というのはいろいろあることなんだと悟られました。それをきっかけに、擬人化されたさまざまなキャラクターのいっせいで登場です。タヨウ星人たち!

「生物多様性」というのは、さまざまな生き物たち

が、お互いにつながり合い、いのちの絆を分かち合っていることだと知りました。地球という星の上に生きている生き物たちは、さまざまなすがたをとっていてもみんなでひとつのいのちを生きているのです。

多様性を語るために、宇宙からタヨウ星人たちが地球を訪れました。120年前に松江にすがたを現した「変な外人」ヘルンさんと共演するためです。生き物は多様なんだ、しかしいのちはすべてつながっているんだということを彼らの対話から聞き取れますでしょうか？

松江へやってきたタヨウ星人たちが皆さんに何を語りかけるか、彼らの生みの親の河南堂珍元か なんどうちんげんさいに出逢う機会もできればいいですね。

生物多様性大作戦を練った「ひとく」からのご挨拶です。

兵庫県立人と自然の博物館館長 **岩槻 邦男**

ハーンと「生物多様性」

ハーンは人間が自然と共に生きることがもっとも大切だと考える人でした。だから、松江で人々があるがままに自然をみて自然を生かしている姿に接し、心から共感したのです。その考えは、おそらく子どものころの体験が深く作用したのでしょう。ギリシャ・レフカダの海辺で生まれ、アイルランド・トラモアの海で海との一体感を得たり、コング村の森の中で妖精の輪を探すとといった体験をしたことです。その後、地球を半周もして日本へたどり着くまでの異文化の体験も心が開かれ偏見から解放された要因です。

カリブ海のマルティニークでは執筆中にヘビが自分の肩をはって横切ったといい、日本では執筆中にいやというほど蚊かに食われましたが、それでもまったく平気でした。松江の家では、カエルを捕ろうと

するヘビに自分の食べ物を分け与えることで空腹を満たさせ、カエルの命を救ってあげました。また机の上にはいつも虫籠むしかごを置いて、スズムシやマツムシの声を楽しんでいました。ハーンが作品に取り上げた生き物は蚕かいこ・セミや こうちゅう・夜光虫・トンボ・カエル・草ヒバリ・ホタル・ハエ・チョウ・蚊か・アリなどたくさんありますが、これらの生き物の多くは、当時、西洋ではあまり歓迎されるものではなく、文化として生かされることもありませんでした。

つまりハーンは、人が自然を選び、コントロールするという考えにはなじめない人でした。これからの地球の未来には、このような異なるものが共に生きることを認める精神が必要とされています。それが「生物多様性」というものです。タヨウ星人の絵を楽しみながら、地球の未来にとって必要なことを考えていただければ、幸せです。

小泉八雲記念館顧問 小泉八雲ひ孫 **小泉 凡**



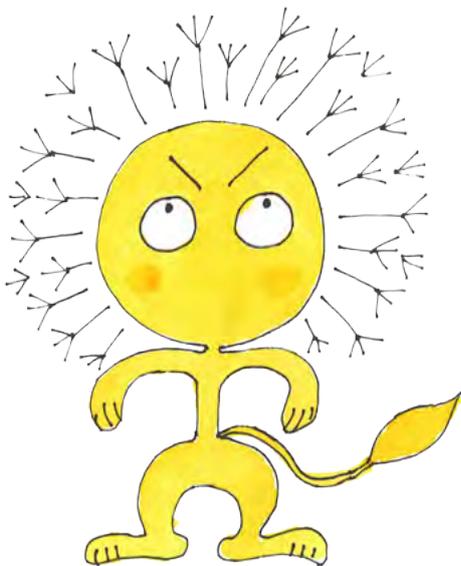
ぎっちゃん君

卵のころの「男はないたらあかん」とのスリコミで、
鳴かないオスのキリギリスとなった。
お～ま～え～は～ア～ホ～カ～と、
のこぎりで演奏する。



カエルトノサマ

顔色はよくないが、ノリはいい。
コツコツやるより、一足飛びに前に進みたいタイプ。
国と郷土を愛する心をモットーとし、
演説がけっこううまい。



ライオンタンポポ

陽当たりのいいところじゃないとイヤ。
明るい性格のがんばり屋さんだが、
お天気が悪いと急に元気がなくなる。
そんなときは、頭の綿毛がしぼんでいる。

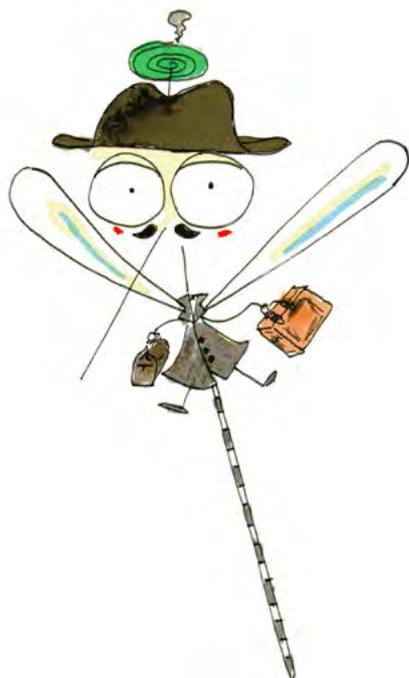


アリ・ファール

コツコツと努力するタイプ。
ハタラキアリだが、観察に夢中でエサにいつも逃げられている。
女王アリ・アントワネットに特別に許された
生き物の行動を研究。

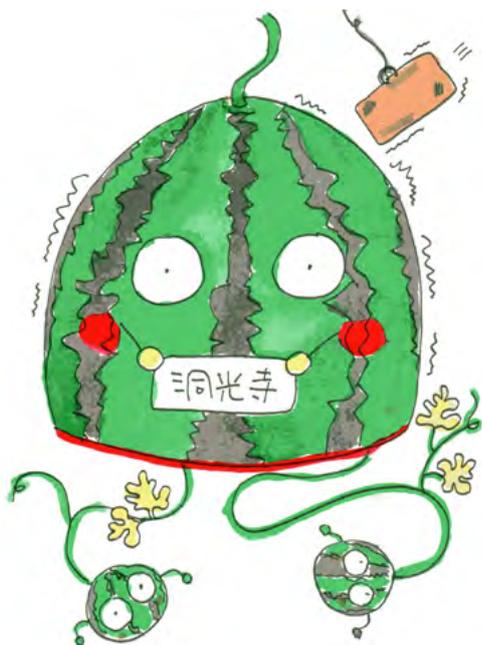
「ヘルンさんとタヨウ星人」展のために 描き下ろされたタヨウ星人(一部)

©河南堂珍元斎



ラフ・カ・ディオ・はん

歌うことが得意な旅するオスのカ。
花の蜜や果汁が大好きだがいつかメスのように
ヒトの血を吸うことを夢見ている。
悪いムシがつかないように
いつも頭の上に蚊取線香をのせている。



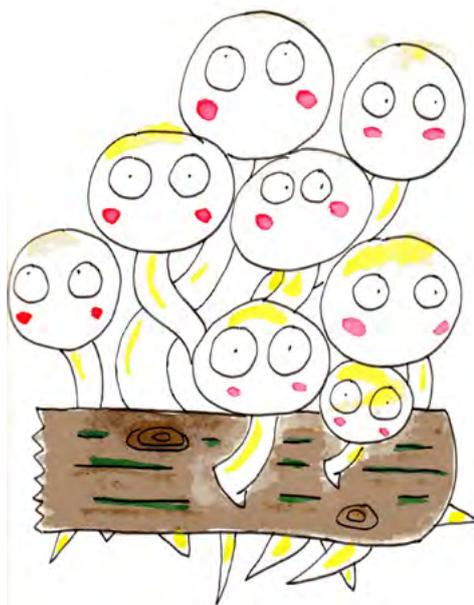
スイカネ

洞光寺に住むスイカの鐘。
水都マツエの夏の朝にゴーンと美しい音を響きわたらせる。
赤く熟すといっそう音が良くなる。



シジミオヤジ

一本気な性格でシジミ漁が得意。
無口でなかなか口を開かないが
塩抜きされると弱い。
住んでいるオオハシ川の環境保全に熱心。



ヤマタノエノキオロチ

酒が好きでいつも酔っぱらっている8本のキノコ。
でも呑みすぎると泣き上戸、怒り上戸、笑い上戸などに
変態するので危険。